

### 第3学年特別活動学習指導案

日 時	令和7年1月28日(火) 第5校時 13:20~14:10
学校名	渋谷区立笹塚中学校
対 象	第3学年1組
会 場	3階3年1組教室
授業者	教諭 長澤 理世

(1) **題材名** 友達が被害者になったら(令和6年度人権教育プログラム)

#### (2) 題材のねらい

犯罪被害者やその家族の現状と心情を理解し、望ましいかかわり方を考えることを通して、集団の一員として自覚と責任をもち、よりよい人間関係を築くことができるようにする。

#### (3) 評価規準

- ア よりよい生活を築くための知識・技能 犯罪被害者やその家族が何を望んでいるのかを知り、思いやりをもって人間関係を築くことの大切さや実践の仕方を理解し、よりよい人間関係を築くために必要な知識や行動の仕方を身に付けている。
- イ 集団や社会の形成者としての思考・判断・表現 他の人を思いやり、集団や社会の中でよりよい人間関係を築くことを考え、自分に合った解決方法を意思決定して実践している。
- ウ 主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度 犯罪被害者やその家族に関わる現状等について関心を持ち、どのように関わればよいのか考え、よりよい人間関係を築こうとしている。

#### (4) 題材設定の理由

生徒は、家庭や地域における人間関係、学校における生徒間等の多様な人間関係の中で生きている。一人一人の意見や意思は多様であることを知り、ときには葛藤や対立を経験する。これら様々な人間関係について振り返らせ、自己の課題を見だし、課題解決に向けた具体的な方法などについて話し合い、その中で共有化された解決の方向性等を参考にして自分としての解決方法等を意思決定させる。そして、決めたことを実践しながら円滑な人間関係に資するよう指導することが大切である。

本題材では、動画やワークブックの資料を活用しながら、「友達が被害者になったら」という具体的な場面を取り上げ、犯罪被害者やその家族の現状や心情を理解させるとともに、自分ができることは何かについて考えさせる。犯罪被害者やその家族がしてほしいと思っていることはそれぞれで同じではないが、身近にそうした人がいたときの自分の役割を考えさせることを通して、犯罪被害者への理解を深め、人に寄り添うことの意味とその大切さを実感できるようにする。このような学習を通して、集団の一員としてよりよい人間関係を築こうとする態度を育てるため、本題材を設定した。

## (5) 生徒の実態

犯罪に関わる情報については、テレビや SNS のニュースで知っている。しかし、犯罪に遭った方たちの気持ちを想像したり、考えたりすることは容易ではないと考える。本学級では、互いの個性を受け入れようとする生徒が多く見られる。また、クラスの中に困っている生徒がいれば協力して解決しようとするなど、互いに支え合おうとする姿もよく見られる。その反面、仲の良さから他者との適切な距離感が分からず、悪気はなくとも心無い言動をする生徒もいることが課題であるため、自分の言動が、相手にどう受け止められるかをよく考えるよう指導している。

## (6) 人権教育の視点

犯罪被害者やその家族への関わり方を考えることを通して、周囲の心ないわさや中傷、偏見がもたらす人権上の問題を具体的に理解させるとともに、他の人の気持ちを尊重して行動しようとする態度を育てる。

## (7) 本時の指導

	○学習活動 ・予想される生徒の反応	・人権教育に関わる留意点等 ◆評価
導入	○ 「友達が被害者になったら (ワークブック)」 〔資料 1〕の p. 1 「はじめに」を活用し、犯罪被害について確認する。	・ 交通事故や犯罪被害の発生状況などを知り、誰にでも起こり得る問題であることを理解させる。
展開	○ 「友達が被害者になったら (動画)」〔資料 2〕を視聴する。 ○ 〔資料 1〕の p. 2 「もし、周囲に被害者がいたら…」を用いて、クラスメイトから励まされた「さやか」が、なぜ教室から走り去ってしまったのか考え、記入する。 ・ 友達が励ましてくれたけど、気持ちが重くなってしまったから。 ○ 〔資料 1〕の p. 8 「被害者はどんな気持ちでいるんだろう」を用いて、しばらく学校を休んでいる「さやか」の気持ちや状態を自分のことに置き換えて考え、記入する。 ・ 学校に行くのが怖いと感じている。周りの目が気になってしまう。	・ 犯罪被害にあった生徒がいる場合などを踏まえ、学級の生徒の家庭状況等に十分配慮する。 ・ 交通事故によって大切な家族を失った「さやか」や家族の気持ちを考えることを通して、犯罪被害者やその家族の状況を理解させる。 ・ 被害者は周囲の無神経な対応によってさらに傷付いたり、生活が一変してしまったりすることを理解させる。
	被害者の気持ちに配慮した対応を考えよう	○ もし友達が被害者になったら、どのように接すればよいかについてグループで話し合う。 ・ まず、友達の話をしっかり聞いてあげることが大事だと思う。 ・ 無理にアドバイスしようとせず、ただ話を聞くことで友達の気持ちを軽くできるかもしれない。 ・ 先生や他の信頼できる大人に相談することを勧める。そして必要なら一緒に相談に行きサポートする。 ・ 相手の気持ちを理解しようとするのが大切だと思う。どう感じているのか、何をしてほしいのかを直接聞いてみる。
終末	○ 今回の学習を通して学んだことをどのように生かすことができるかを考える。 ・ 友達が困っているときには、まず相手の話をしっかり聞くことを心がけたい。 ・ 普段から周りの人たちの気持ちに気を配る。	・ よりよい人間関係を築くことの大切さについて確認し、実践への意欲を高めさせる。 ◆ 本時の学習を踏まえて、よりよい人間関係を築こうとしている。【ウ主】